

## ② 管路の資産（管路延長）

管路の資産は旧関・武芸川で 743Km である。GIS による管路情報の整備は、現在旧関・武芸川地域が整備されている。GIS による管路情報の整備は、武儀は平成 30 年度に実施、洞戸は 31 年度、板取は 32 年度に実施する予定であり、GIS による管路情報の整備が出来次第、アセットマネジメントの更新計画に組み入れていく。GIS で布設不明とされたものが 364Km ある。この敷設年度不明管の取り扱いについて検討した。

### 2.1 不明管の考え方

現在の管路の情報は GIS による布設情報の整備をおこなっていることから、GIS による管路情報をアセットマネジメントの基礎データとすることにしている。しかし、工事資料の散逸などで過去の布設年度が不明な管路が全体の 48.9% を占めることが分かった。

管路の情報は、GIS のほかに固定資産台帳がある。固定資産台帳は複式簿記における固定資産の補助簿のひとつである。取得金額のほか、取得年度、工事名、所在地、取得財源、管路の種類、口径、延長も記録されている。アセットマネジメントの基礎資料として採用しなかったのは、所在地が地区名で、GIS のように場所が特定できないことがある。また、固定資産台帳は取得時の情報は、GIS と同じ工事資料のほか請求書等に基づくため正確であるが、除却については全部除却であれば除却されるが、部分除却であると除却金額の算定が難しいため行えないところにある。それは、固定資産台帳が複式簿記の補助簿であり、1 つの工事に複数の管種、口径を使用しているにもかかわらずそれを支出単位でまとめることによるものである。施設・設備が物理的単位と会計処理単位が一致することが多いため、固定資産台帳を資産管理に利用できるのに対し、管路は利用が難しいのは、管路の特定に由来する。

しかしながら、布設時の情報は正確なものであるため、GIS を基本としながら、固定資産台帳を副次的に利用することは可能である。固定資産台帳では取得年度はすべて明らかであることから、固定資産台帳の取得年度の分布に GIS の不明管路の布設年度を分布させて布設年度を推定する方法を行うことにする。

